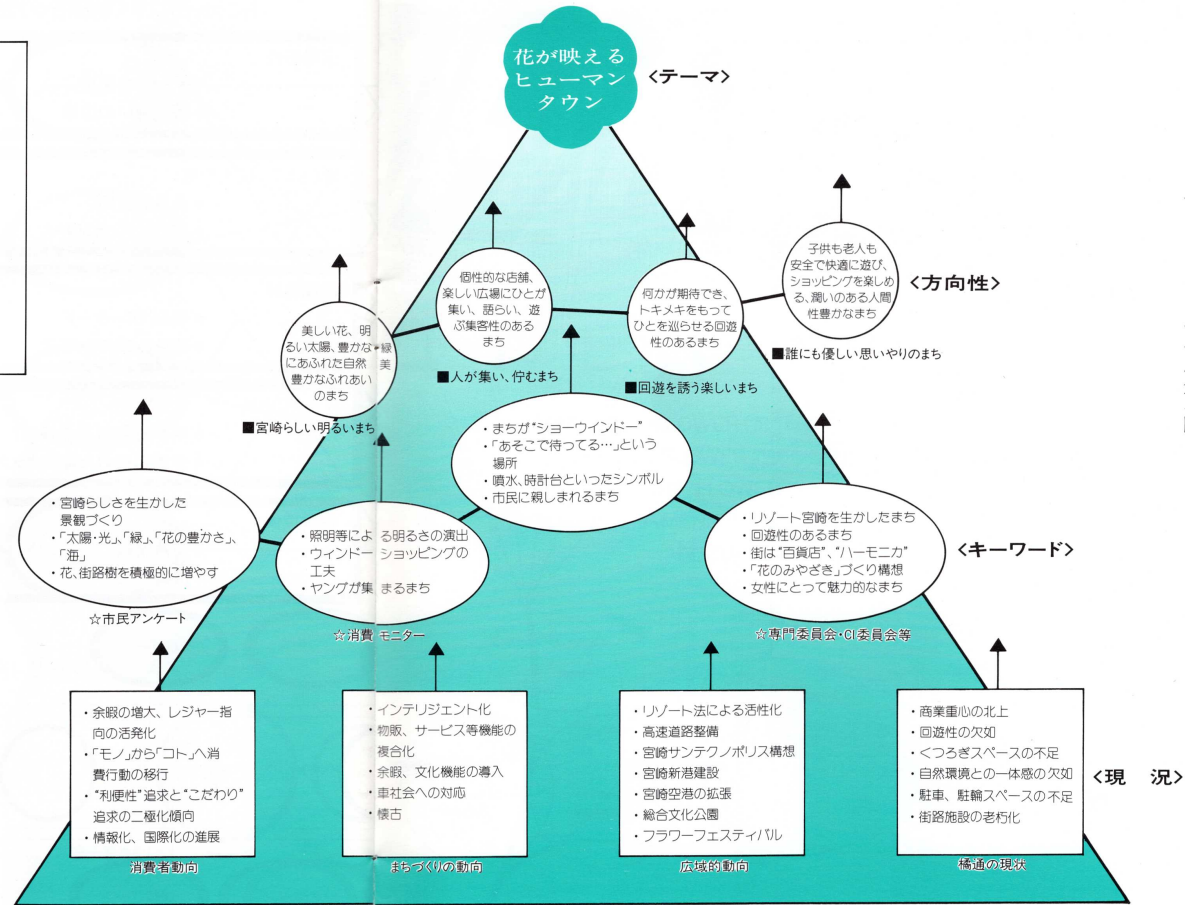


花のまち、宮崎のシンボルタウンづくり。

まちづくり・テーマ設定方向



いつでも だれとでも なにかがあり
「ヒト」が集まり「モノ」が集まり
「情報」が集まる トキメキのまち
ひとに優しいまち

社会は大きく動いています。私たちが取り巻く状況としては、労働時間の短縮による余暇の増大、情報社会と呼ばれているような、知りたい情報の接近と情報価値の変化など、一昔前とはくらべものにならない変化が進んでいます。

社会の変化に合わせて、当然そこに暮らす生活者の心も変化しているようです。

いままでの橋道はその変化に対応できているのでしょうか。回遊性がありますか、くつろぎのスペースはありますか、街路施設は、華やかさ、明るさ、文化コミュニケーションは充分でしょうか。もちろんそれらのことが不足しているからこそ、誰もが新しいまちづくりを求めているわけです。

この間、新しいまちづくりの方向を探するために、市民の皆様に対するアンケートを繰り返したり、グループで集まっていたり、モニターとしての意見をいただいたりしました。

その結果、私たちはまちづくりの方向性として、「花」というキーワードを中心に、「宮崎らしい明るいまちづくり」が、「人が集い、たずむまちづくり」が、「回遊が楽しめるまちづくり」が、「誰にも優しい思いやりのあるまちづくり」を設定しました。

美しく花が映えるようなまちづくりを進めれば、優しさがもつと生まれ、そんなまちには人が集まるでしょう。まるでかつての橋道への人々の集中のように、訪れる人が多くなれば、必然的にモノと情報が集中します。新しい情報は人々にトキメキを与え、いつも何かが生まれるまちになるでしょう。基本は人へのおもいやりであり、人への優しさです。人間が中心。人間が基本。人間性への尊厳が根本。私たちがめざすまちづくりは、だから「花が映えるヒューマンタウン」づくりです。